

三食のひろは

題字：倉林 順一

◇毎回興味深く拝読させて頂いております。スクールカウンセラーをしている立場から見ても、大いに参考になり、欠かせない情報源です。編集、取材のご労苦に感謝しております。

中学校四校でスクールカウンセラー、月二回の合唱指導、年十回程度の「うたごえ喫茶」、高齢者施設での音楽ボランティア活動、無料塾での英語講師など、忙しいながらも楽しく活動しております。

(洪川市・小林一郎)

◇六月末で五年ほど勤めた障害者就労支援所を辞め、九月末から新しい仕事に就きました。今度の仕事は軽度の障害のある子どもたちが利用する「放課後デイ」です。

前職の際も、利用者が一体どんな障害があるのか、一緒に活動する中でもわからないくらいでした。今までの社会経験の少なさから生きにくさを抱えているように感じました。

放課後デイの子どもは尚更、どんな障害だかわかりません。確かに興奮して大声を上げたりする子がいますが、子どもというのは感情のコントロールが難しいものだと思うので、私なりに対応しています。

仕事内容は、事務が八割で、一割二割が子どもたちの支援です。宿題を見たり、一緒にブロックで遊んだりです。子どもみたいにテンションを高くはできませんが、それなりに相手が出来ているかなあって感じます。遊び相手より宿題を見る方が楽ですね。

(前橋市・下田由佳)

◇私は、相変わらず、ニュース検定協会でのアルバイトを続けています。週四日、東京まで出勤しています。

八月一六日からの「教育の集い二〇一九」

(滋賀)に参加してきました。アベノミクス第三の矢「成長戦略」として、政権が社会全体を「大変革時代」を標榜し、文部科学省の教育政策を遥かに超えた国家戦略「Society5.0」の構築のために、公教育の希釈化・解体を爆発的なスピードで進めている実態を認識し、危機感を抱いて帰ってきました。法政大学の児美川孝一郎さんが『クレスコ』の七月号で「高校教育はどこに向かうか？」で端的に問題と課題を指摘しています。学習会ができたらとも思うのですが。

(富岡市・中東作蔵)

◇前号「育ちと学び」(No.41)滝沢先生の「共同研究者の部屋」を読んで思い浮かぶことがあったので、早速ネットで一九九五年の「大学の物理教育」から「自主的学習態度の確立をめざす群馬大学方式」というレポートを読んでみ

ました。学生物理実験の中に面接による口頭試問を取り入れ実験計画と実行を学生が主体的に行うという当時の教養部で取り組んでいた教育実践ですが、二〇〇四年に工業高校の選択物理の授業で同様な「課題学習」を四ヶ月かけて発表会までこぎつけたことを思い出しました。進学校でない専門高校だからできたのかもしれませんが、主体的で深く考える国民を育てるならば、高校でも「群大方式」は有効だと共感しました。先のレポート、一読の価値あります。

(伊勢崎市・坂田尚之)



※写真は、エイムズ唯子さんのお義父様制作、鉄のオブジェ。風にはためく星条旗の下に「4th of Tube-Iy」と書くと、独立記念日にも休めない鋼鉄管(Tube)製造労働者の思いを表現。(「ディネの国から」前号No.41に掲載予定でしたが、編集のミスで抜けていました。お詫びと共に改めて掲載します。編集係)